



Locus of learning

Wakayama University
Faculty of Education

学びの軌跡

—教師としての成長のために—

和歌山大学
教育学部

75期

※この冊子は卒業まで大切に保管してください。

学生番号 学生氏名

教育学部ディプロマ・ポリシー

1. 幅広い教養と分野横断的な学力

- ・ 学術文化の基盤となる幅広い学術的教養を身につけている。
- ・ 論理的に考える力や情報化社会に対応する実践的な力を身につけている。

2. 専門的知識や技能

- ・ 学校教育において教育活動を行うための基盤となる専門的知識や技能を身につけている。
- ・ 幼児期から青年期に至る子どもの発達を見通し、個々の多様な教育的ニーズを理解し支援できる。

3. 課題解決力と自己学修能力

- ・ 子どもたちに関わる専門職として、生涯にわたって学び続ける基盤を有している。

4. 協働性とコミュニケーション能力

- ・ 基本的人権を擁護し、他者と関わりながら教育活動を行うための基盤を有している。

5. 地域への関心と国際的視点

- ・ 地域の特性を理解するための基盤となる知識や技能を身につけている。
- ・ 国際理解・異文化理解の能力を身につけている。

もくじ

p.1	プロフィール		
p.2	<table border="1"><tr><td>i-1</td><td>「学びの軌跡（教職カルテ）」の利用方法</td></tr></table>	i-1	「学びの軌跡（教職カルテ）」の利用方法
i-1	「学びの軌跡（教職カルテ）」の利用方法		
p.3	<table border="1"><tr><td>i-2</td><td>自己評価の記入方法</td></tr></table>	i-2	自己評価の記入方法
i-2	自己評価の記入方法		
p.4	<table border="1"><tr><td>ii-1</td><td>1年次（1年次に記入するページ）</td></tr></table>	ii-1	1年次（1年次に記入するページ）
ii-1	1年次（1年次に記入するページ）		
p.5	<table border="1"><tr><td>ii-2</td><td>2年次（2年次に記入するページ）</td></tr></table>	ii-2	2年次（2年次に記入するページ）
ii-2	2年次（2年次に記入するページ）		
p.6	<table border="1"><tr><td>ii-3</td><td>3年次（3年次に記入するページ）</td></tr></table>	ii-3	3年次（3年次に記入するページ）
ii-3	3年次（3年次に記入するページ）		
p.7	<table border="1"><tr><td>ii-4</td><td>4年次（4年次に記入するページ）</td></tr></table>	ii-4	4年次（4年次に記入するページ）
ii-4	4年次（4年次に記入するページ）		
p.8-23	<table border="1"><tr><td>iii-1</td><td>自己評価・主免（小学校）[教職共通]科目</td></tr></table>	iii-1	自己評価・主免（小学校）[教職共通]科目
iii-1	自己評価・主免（小学校）[教職共通]科目		
p.24-25	<table border="1"><tr><td>iii-2</td><td>自己評価・副免（中学校・高等学校）</td></tr></table>	iii-2	自己評価・副免（中学校・高等学校）
iii-2	自己評価・副免（中学校・高等学校）		
p.26-28	<table border="1"><tr><td>iii-3</td><td>自己評価・副免（幼稚園）</td></tr></table>	iii-3	自己評価・副免（幼稚園）
iii-3	自己評価・副免（幼稚園）		
p.29	<table border="1"><tr><td>iv-1</td><td>自己評価・卒業時</td></tr></table>	iv-1	自己評価・卒業時
iv-1	自己評価・卒業時		

i-1 「学びの軌跡（教職カルテ）」の利用方法

「学びの軌跡（教職カルテ）」 「学びの軌跡（教職カルテ）」は、4年間の教職関連科目の学習過程の記録や自己評価、振り返りを実施することを目的としています。それぞれの時期に確認すべき内容は以下のとおりです。4年次後期に「教職実践演習」に参加するときや、チューター訪問（チューター担当教員や指導教員との面談）の際の基礎資料となりますので、ii以降の項目については必ず記入し、卒業まで大切に保管してください。

それぞれの年次において、確認や記入をすませたら、p.4-7の口欄に☑を付けましょう。また、学生番号も記入してください。

なお、以下に掲げる科目を単位取得した場合、自身の理解度を確認するために「自己評価」を記入しましょう。自己評価の記入方法は次のページに書かれています。

- (1) 教職共通科目を単位取得した場合（記入ページ p.8-23）
- (2) 副免（中学校・高等学校）の取得に際して、「教育実習B」・各教科の指導法を単位取得した場合（記入ページ p.24-25）
- (3) 副免（幼稚園）の取得に際して、「幼稚園教育課程総論」「幼児教育の方法と技術」「幼児の理解と支援」「教育実習B（幼稚園）」・各保育内容の指導法を単位取得した場合（記入ページ p.26-28）

参考：[学修ポートフォリオ]のページ

<https://kmags.wakayama-u.ac.jp/campusweb>

教育サポートシステムにアクセスし、

学生情報 → **学生ポートフォリオ** → **学修ポートフォリオ** の順で選択してください。

参考画面

The screenshot shows the student portal interface. At the top, there are navigation links: HOME, ① 学生情報, 履修②, 成績, 休補・おがずー, シラバス, アンケート, 掲示, 予約, 緊急連絡, その他. Below these are menu items: ① 学生情報の変更について, ② 学生ポートフォリオ, ③ 学生住所変更, 学修ポートフォリオ項目設定. The main content area is divided into several sections: ④ 新着情報 (no new info), MYスケジュール (calendar for Jan 2022), よく使うメニュー (Student Card), and ⑤ 学生ポートフォリオ/学籍情報. The ⑤ section contains sub-menus for 学籍情報, 学生個人情報, 出身校・入試情報, 連絡先情報, 学籍異動履歴, 成績修得状況, 面談記録, 出欠情報, 取得資格・賞罰情報, 学研災・学研賠情報, and ⑥ 学修ポートフォリオ. Below this is a table for 学生基本情報 with fields for 学生番号, 学生氏名, 所属, 現況区分, クラス, セメスタ・通年制, 学籍情報, 要件年月, 入学年月日, 秋入学区分, and 入学年次.

学生基本情報	
学生番号	*****
学生氏名	****
学生氏名(カナ)	学生氏名(英字)
所属	教育学部学校教育教員養成課程
学年	1年
現況区分	在学中
学生身分	一般学生
クラス	出席番号
セメスタ・通年制	通年制
セメスタ数	

学籍情報	
要件年月	20 年04月
入学年月日	20 年4月1日
秋入学区分	入学区分 一般入学
入学年次	1年

i - 2 自己評価の記入方法

教職共通科目（教職実践演習以外）や教育実習・各教科の指導法を単位取得したのち、自身の理解度を確認するために、自己評価を行きましょう（副免の部分は明朝体で記載しています）。

例1 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 の場合（p8）

授業科目名	教職課程コアカリキュラムの到達目標		自己評価
教育学概説 A 教育学概説 B	教育の基本理念	①教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。 ②子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。	A1 B
	教育に関する歴史	①家族と社会による教育の歴史を理解している。 ②近代教育制度の成立と展開を理解している。 ③現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。	A2 B
	教育に関する思想	①家庭や子供に関わる教育の思想を理解している。 ②学校や学習に関わる教育の思想を理解している。 ③代表的な教育家の思想を理解している。	A3 A

・単位取得した授業科目名に○をつけてください。

・2科目以上単位取得した場合は該当する授業科目名に○をつけ、学ぶことで理解度がさらに上がった場合は自己評価を上書き（追記）してください。

・到達目標に対する自己評価（3段階）を記入してください。

A 十分に理解した・理解できた
B 理解した・理解できた（基本はB評価）
C 理解が不十分だった

例2 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）の場合（p23、副免 p25）

教科名を記入してください。

教科名： **理科**

教職課程コアカリキュラムの到達目標		自己評価			
		A	B	C	D
当該教科の目標及び内容	①学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 ②個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。	P1	B	A	
当該教科の指導方法と授業設計	①子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 ②当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用…	P2	B	B	

・A～Dに対応するように自己評価（3段階）を記入してください。ただし社会の場合、「中等社会・地理歴史科教育法A」はA欄に、「〃B」はB欄に、「中等社会科・公民科教育法A」はC欄に、「〃B」はD欄にそれぞれ記入してください。
 ・「初等・中等〇〇科教育法」を履修した場合は、D欄に記入してください。

入学時

- 表紙の裏側に書かれている [教育学部ディプロマ・ポリシー] を確認しましょう。
- [プロフィール] (p1) を記入しましょう。
- インターネット上で [学修ポートフォリオ] を開き、内容を確認しましょう。
- Moodle にアクセスし、新入生チューター担当教員がだれなのかを確認のうえ、面談を受けましょう。
- 現時点での教職に就きたい度合いを5段階でチェックしてください (5～1のいずれかに○)。

教職に就きたい← 5 - 4 - 3 - 2 - 1 →教職に就かない



1年次10月

- 表紙の裏側に書かれている [教育学部ディプロマ・ポリシー] を確認しましょう。
- 教職共通科目を単位取得している場合、i - 2を確認しながら、iii - 1～iii - 3 (p.8-28) を記入しましょう。
- [学修ポートフォリオ] を開き、自身の学びを確認し、記入しましょう。
- Moodle にアクセスし、新入生チューター担当教員の面談を受けましょう。
- 現時点での教職に就きたい度合いを5段階でチェックしてください (5～1のいずれかに○)。

教職に就きたい← 5 - 4 - 3 - 2 - 1 →教職に就かない

この学年で学んだことのほか、気づいたこと等があれば記載してください。



2年次4月

- 表紙の裏側に書かれている [教育学部ディプロマ・ポリシー] を確認しましょう。
- 所属するコース・専攻が決まったら、[プロフィール] (p1) を追記しましょう。
- 教職共通科目を単位取得している場合、iii - 1 ~ iii - 3 (p.8-23) を記入しましょう。
- [学修ポートフォリオ] を開き、自身の学びを確認し、記入しましょう。
- Moodle にアクセスし、専攻チューター担当教員がだれなのかを確認しましょう。
- 現時点での教職に就きたい度合いを5段階でチェックしてください (5 ~ 1のいずれかに○)。

教職に就きたい ← 5 - 4 - 3 - 2 - 1 → 教職に就かない



2年次10月

- 表紙の裏側に書かれている [教育学部ディプロマ・ポリシー] を確認しましょう。
- 教職共通科目を単位取得している場合、iii - 1 ~ iii - 3 (p.8-23) を記入しましょう。
- [学修ポートフォリオ] を開き、自身の学びを確認し、記入しましょう。
- 現時点での教職に就きたい度合いを5段階でチェックしてください (5 ~ 1のいずれかに○)。

教職に就きたい ← 5 - 4 - 3 - 2 - 1 → 教職に就かない

この学年で学んだことのほか、気づいたこと等があれば記載してください。



ii - 3 3年次へ

3年次4月

- 表紙の裏側に書かれている [教育学部ディプロマ・ポリシー] を確認しましょう。
- 取得する副免等が決まったら、[プロフィール] (p1) を追記しましょう。
- 教職共通科目を単位取得している場合、**iii - 1** ~ **iii - 3** (p.8-23) を記入しましょう。
- [学修ポートフォリオ] を開き、自身の学びを確認し、記入しましょう。
- Moodle にアクセスし、ゼミ指導教員の面談を受けましょう。
- 現時点での教職に就きたい度合いを5段階でチェックしてください (5 ~ 1 のいずれかに○)。

教職に就きたい ← 5 - 4 - 3 - 2 - 1 → 教職に就かない



3年次10月

- 表紙の裏側に書かれている [教育学部ディプロマ・ポリシー] を確認しましょう。
- 教職共通科目を単位取得している場合、**iii - 1** ~ **iii - 3** (p.8-23) を記入しましょう。
- [学修ポートフォリオ] を開き、自身の学びを確認し、記入しましょう。
- Moodle にアクセスし、ゼミ指導教員の面談を受けましょう。
- 現時点での教職に就きたい度合いを5段階でチェックしてください (5 ~ 1 のいずれかに○)。

教職に就きたい ← 5 - 4 - 3 - 2 - 1 → 教職に就かない

この学年で学んだことのほか、気づいたこと等があれば記載してください。



ii - 4

 4年次へ

- 表紙の裏側に書かれている [教育学部ディプロマ・ポリシー] を確認しましょう。
- 教職共通科目を単位取得している場合、 iii - 1 ~ iii - 3 (p.8-23) を記入しましょう。
- [学修ポートフォリオ] を開き、自身の学びを確認し、記入しましょう。
- 4年次4月 Moodle にアクセスし、ゼミ指導教員の面談を受けましょう。
- 現時点での教職に就きたい度合いを5段階でチェックしてください (5~1のいずれかに○)。

教職に就きたい ← 5 - 4 - 3 - 2 - 1 → 教職に就かない



- 表紙の裏側に書かれている [教育学部ディプロマ・ポリシー] を確認しましょう。
- 教職共通科目を単位取得している場合、 iii - 1 ~ iii - 3 (p.8-23) を記入しましょう。
- [学修ポートフォリオ] を開き、自身の学びを確認し、記入しましょう。
- 4年次10月 Moodle にアクセスし、ゼミ指導教員の面談を受けましょう。
- 現時点での教職に就きたい度合いを5段階でチェックしてください (5~1のいずれかに○)。

教職に就きたい ← 5 - 4 - 3 - 2 - 1 → 教職に就かない



- 表紙の裏側に書かれている [教育学部ディプロマ・ポリシー] を確認しましょう。
- 教職共通科目を単位取得している場合、 iii - 1 ~ iii - 3 (p.8-23) を記入しましょう。
- 教職実践演習の最終日に、 iv - 1 (p.29) を記入しましょう。
- 4年次2月 [学修ポートフォリオ] を開き、自身の学びを確認し、記入しましょう。
- 現時点での教職に就きたい度合いを5段階でチェックしてください (5~1のいずれかに○)。

教職に就きたい ← 5 - 4 - 3 - 2 - 1 → 教職に就かない



卒 業

A 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

全体目標 教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。

授業科目名	教職課程コアカリキュラムの到達目標		自己評価
教育学概説A 教育学概説B	教育の基本 理 念	①教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。 ②子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。	A1
	教育に関 する 歴 史	①家族と社会による教育の歴史を理解している。 ②近代教育制度の成立と展開を理解している。 ③現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。	A2
	教育に関 する 思 想	①家庭や子供に関わる教育の思想を理解している。 ②学校や学習に関わる教育の思想を理解している。 ③代表的な教育家の思想を理解している。	A3

このほかに、この授業で学んだこと・気づいたこと等があれば記載してください。

B 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）

全体目標 現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。

授業科目名	教職課程コアカリキュラムの到達目標		自己評価
現代教職論 A 現代教職論 B	教職の意義	①公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。 ②進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特性を理解している。	B1
	教員の役割	①教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解している。 ②今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。	B2
	教員の職務内容	①幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を理解している。 ②教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。 ③教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。	B3
	チーム学校運営への対応	①校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。	B4

このほかに、この授業で学んだこと・気づいたこと等があれば記載してください。

C 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）

全体目標 現代の学校教育に関する社会的、制度的又は経営的事項のいずれかについて、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的な知識も身に付ける。

授業科目名	教職課程コアカリキュラムの到達目標		自己評価
教育行政学	教育に関する社会的事項	①学校を巡る近年の様々な状況の変化を理解している。 ②子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解している。 ③近年の教育政策の動向を理解している。 ④諸外国の教育事情や教育改革の動向を理解している。	C1
	教育に関する制度的事項	①公教育の原理及び理念を理解している。 ②公教育制度を構成している教育関係法規を理解している。 ③教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解している。 ④教育制度をめぐる諸課題について例示することができる。	C2
	教育に関する経営的事項	①公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿を理解している。 ②学校における教育活動の年間の流れと学校評価の基礎理論を含めたP D C Aの重要性を理解している。 ③学級経営の仕組みと効果的な方法を理解している。 ④教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働の在り方や重要性を理解している。	C3
	学校と地域との連携	①地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解している。 ②地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解している。	C4
	学校安全への対応	①学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解している。 ②生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組を理解している。	C5

このほかに、この授業で学んだこと・気づいたこと等があれば記載してください。

D 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

全体目標 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。

授業科目名	教職課程コアカリキュラムの到達目標		自己評価
発達と教育の心理学	幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程	①幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。 ②乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。	D1
	幼児、児童及び生徒の学習の過程	①様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。 ②主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。 ③幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。	D2

このほかに、この授業で学んだこと・気づいたこと等があれば記載してください。

E 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解

全体目標 通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。

授業科目名	教職課程コアカリキュラムの到達目標		自己評価
特別な教育的ニーズの理解と支援	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解	①インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。 ②発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。 ③視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。	E1
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法	①発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。 ②「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。 ③特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。 ④特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。	E2
	障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援	①母国語や貧困の問題等により特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。	E3

このほかに、この授業で学んだこと・気づいたこと等があれば記載してください。

F 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）

※Jの項目（p.17）もあわせて記入してください。

全体目標 学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。

授業科目名	教職課程コアカリキュラムの到達目標		自己評価
教育課程・方法の理論と実践	教育課程の意義	①学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解している。 ②学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。 ③教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解している。	F1
	教育課程の編成の方法	①教育課程編成の基本原則を理解している。 ②教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。 ③単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また幼児、児童及び生徒や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。	F2
	カリキュラム・マネジメント	①学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。 ②カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。	F3

このほかに、この授業で学んだこと・気づいたこと等があれば記載してください。

G 道徳の理論及び指導法

全体目標 道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。

授業科目名	教職課程コアカリキュラムの到達目標		自己評価
道徳教育論 A	道徳の理論	①道徳の本質（道徳とは何か）を説明できる。 ②道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解している。 ③子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。 ④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。	G1
道徳教育論 B	道徳の指導法	①学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。 ②道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している。 ③道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。 ④授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。 ⑤道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。 ⑥模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。	G2

このほかに、この授業で学んだこと・気づいたこと等があれば記載してください。

H 総合的な学習の時間の指導法

全体目標 総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。

授業科目名	教職課程コアカリキュラムの到達目標		自己評価
	総合的な学習の時間の意義と原理	①総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割について、教科を越えて必要となる資質・能力の育成の視点から理解している。 ②学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点を理解している。	H1
総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の指導計画の作成	①各教科等との関連性を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な事例を理解している。 ②主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性とその具体的な事例を理解している。	H2
	総合的な学習の時間の指導と評価	①探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てを理解している。 ②総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。	H3

このほかに、この授業で学んだこと・気づいたこと等があれば記載してください。

I 特別活動の指導法

全体目標 特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

授業科目名	教職課程コアカリキュラムの到達目標		自己評価
特別活動・教科外活動論 A	特別活動の意義、目標及び内容	①学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 ②教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連を理解している。 ③学級活動・ホームルーム活動の特質を理解している。 ④児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解している。	I1
特別活動・教科外活動論 B	特別活動の指導法	①教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方を理解している。 ②特別活動における取組の評価・改善活動の重要性を理解している。 ③合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 ④特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。	I2

このほかに、この授業で学んだこと・気づいたこと等があれば記載してください。

J 教育の方法及び技術 ※Fの項目 (p.13) もあわせて記入してください。

全体目標 教育の方法及び技術では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法及び教育の技術に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

授業科目名	教職課程コアカリキュラムの到達目標		自己評価
教育課程・方法 の理論と実践	教育の 方法論	①教育方法の基礎的理論と実践を理解している。 ②これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解している。 ③学級・児童及び生徒・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解している。 ④学習評価の基礎的な考え方を理解している。	J1
	教育の技術	①話法・板書など、授業・保育を行う上での基礎的な技術を身に付けている。 ②基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。	J2

このほかに、この授業で学んだこと・気づいたこと等があれば記載してください。

K 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法

全体目標 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法では、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

授業科目名	教職課程コアカリキュラムの到達目標		自己評価
	情報通信技術の活用の意義と理論	①社会的背景の変化や急速な技術の発展も踏まえ、個別最適な学びと協働的な学びの実現や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の必要性など、情報通信技術の活用の意義と在り方を理解している。 ②特別の支援を必要とする児童及び生徒に対する情報通信技術の活用の意義と活用に応じた留意点を理解している。 ③ICT 支援員などの外部人材や大学等の外部機関との連携の在り方、学校における ICT 環境の整備の在り方を理解している。	K1
ICT活用の理論と実践	情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進	①育成を目指す資質・能力や学習場面に応じた情報通信技術を効果的に活用した指導事例（デジタル教材の作成・利用を含む。）を理解し、基礎的な指導法を身に付けている。 ②学習履歴（スタディ・ログ）など教育データを活用して指導や学習評価に活用することや教育情報セキュリティの重要性について理解している。 ③遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの使用法を理解している。 ④統合型校務支援システムを含む情報通信技術を効果的に活用した校務の推進について理解している。	K2
	児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法	①各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間（以下「各教科等」という。）において、横断的に育成する情報活用能力（情報モラルを含む。）について、その内容を理解している。 ②情報活用能力（情報モラルを含む。）について、各教科等の特性に応じた指導事例を理解し、基礎的な指導法を身に付けている。 ③児童に情報通信機器の基本的な操作を身に付けさせるための指導法を身に付けている。※小学校教諭	K3

このほかに、この授業で学んだこと・気づいたこと等があれば記載してください。

L 生徒指導の理論及び方法 ※Nの項目 (p.21) もあわせて記入してください。

全体目標 生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。

授業科目名	教職課程コアカリキュラムの到達目標		自己評価
生徒指導・進路指導におけるこどもの理解と支援の方法	生徒指導の意義と原理	<ul style="list-style-type: none"> ①教育課程における生徒指導の位置付けを理解している。 ②各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義や重要性を理解している。 ③集団指導・個別指導の方法原理を理解している。 ④生徒指導体制と教育相談体制それぞれの基礎的な考え方と違いを理解している。 	L1
	児童及び生徒全体への指導	<ul style="list-style-type: none"> ①学級担任、教科担任その他の校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組の重要性を理解している。 ②基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方を理解している。 ③児童及び生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方を例示することができる。 	L2
	個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導	<ul style="list-style-type: none"> ①校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容を理解している。※高等学校教諭においては停学及び退学を含む。 ②暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応の視点を理解している。 ③インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題や、専門家や関係機関との連携の在り方を例示することができる。 	L3

このほかに、この授業で学んだこと・気づいたこと等があれば記載してください。

M 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

全体目標 教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的な知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的な知識を含む）を身に付ける。

授業科目名	教職課程コアカリキュラムの到達目標		自己評価
教育相談の理論と方法	教育相談の意義と理論	①学校における教育相談の意義と課題を理解している。 ②教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。	M1
	教育相談の方法	①幼児、児童及び生徒の不応や問題行動の意味並びに幼児、児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解している。 ②学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している。 ③受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。	M2
	教育相談の展開	①職種や校務分掌に応じて、幼児、児童及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。 ②いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。 ③教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取り組みの必要性を理解している。 ④地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。	M3

このほかに、この授業で学んだこと・気づいたこと等があれば記載してください。

N 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法

※Lの項目 (p.19) もあわせて記入してください。

全体目標 進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。

授業科目名	教職課程コアカリキュラムの到達目標		自己評価
生徒指導・進路指導におけるこどもの理解と支援の方法	進路指導・キャリア教育の意義及び理論	①教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付けを理解している。 ②学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方を例示することができる。 ③進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方を理解している。	N1
	ガイダンスとしての指導	①職業に関する体験活動を核とし、キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義を理解している。 ②主に全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点を理解している。	N2
	カウンセリングとしての指導	①生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義を理解し、ポートフォリオの活用の在り方を例示することができる。 ②キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法を説明することができる。	N3

このほかに、この授業で学んだこと・気づいたこと等があれば記載してください。

0 教育実習（小学校）

全体目標 教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。

授業科目名	教職課程コアカリキュラムの到達目標		自己評価
教育実習事前 事後指導 (義務教育)	事前指導・ 事後指導に 関する事項	①教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 ②教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。	01

授業科目名	教職課程コアカリキュラムの到達目標		自己評価
教育実習 A (義務教育・小)	観察及び参加並びに教育実習校の理解に関する事項	①幼児、児童又は生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 ②指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。 ③教育実習校（園）の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。 ④学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。	02
	学習指導及び学級経営に関する事項	①学習指導要領及び児童又は生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。 ②学習指導に必要な基礎的技術（話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。 ③学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解している。 ④教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童又は生徒と関わるすることができる。	03

このほかに、学んだこと・気づいたこと等があれば記載してください。

P 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（主免・小学校）

全体目標 当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

教職課程コアカリキュラムの到達目標		自己評価								
		国	社	算	理	生	音	美	体	家
当該教科の 目標及び 内 容	①学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。	P1								
	②個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。									
当該教科の 指導方法と 授 業 設 計	③当該教科の学習評価の考え方を理解している。	P2								
	④当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。									
	①子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。									
	②当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。									
	③学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。									
	④模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。									

このほかに、学んだこと・気づいたこと等があれば記載してください。

iii - 2 自己評価・副免（中学校・高等学校）

※区別をつけやすくするため、この項目は明朝体で記載しています。

O' 教育実習（副免）

全体目標〈略〉

授業科目名	教職課程コアカリキュラムの到達目標		自己評価
教育実習事前 事後指導 学校種を記入 <input type="text"/>	事前指導・ 事後指導に 関する事項	①教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 ②教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。	O'1

授業科目名	教職課程コアカリキュラムの到達目標		自己評価
教育実習 B 学校種を記入 <input type="text"/>	観察及び参加並びに教育実習校の理解に関する事項	①幼児、児童又は生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 ②指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。 ③教育実習校（園）の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。 ④学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。	O'2
	学習指導及び学級経営に関する事項	①学習指導要領及び児童又は生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。 ②学習指導に必要な基礎的技術（話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。 ③学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解している。 ④教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童又は生徒と関わるることができる。	O'3

このほかに、学んだこと・気づいたこと等があれば記載してください。

P' 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（副免）

全体目標〈略〉

（中学校教諭免許状等を取得する場合はこちらに記入してください。複数教科の免許状を取得する場合、上下に分けて書いたり、色を変えて書く等してください。また、「初等中等教科教育法」により単位取得した場合は、Dの欄に記入してください。）

教科名：

教職課程コアカリキュラムの到達目標		自己評価			
		A	B	C	D
当該教科の 目 標 及 び 内 容	①学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 ②個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 ③当該教科の学習評価の考え方を理解している。 ④当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。	P'1			
当該教科の 指導方法と 授 業 設 計	①子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 ②当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。 ③学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 ④模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。	P'2			

このほかに、学んだこと・気づいたこと等があれば記載してください。

iii-3 自己評価・副免（幼稚園）

※区別をつけやすくするため、この項目は明朝体で記載しています。

α 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）

全体目標 〈 略 〉

授業科目名	教職課程コアカリキュラムの到達目標		自己評価
幼稚園教育課程総論	教育課程の意義	①学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解している。 ②学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。 ③教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解している。	α1
	教育課程の編成の方法	①教育課程編成の基本原理を理解している。 ②教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。 ③単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また幼児、児童及び生徒や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。	α2
	カリキュラム・マネジメント	①学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。 ②カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。	α3

β 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）

全体目標 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

授業科目名	教職課程コアカリキュラムの到達目標		自己評価
幼児教育の方法と技術	教育の方法論	①教育方法の基礎的理論と実践を理解している。 ②これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解している。 ③学級・児童及び生徒・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解している。 ④育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。	β1
	教育の技術	①話法・板書など、授業・保育を行う上での基礎的な技術を身に付けている。 ②基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。	β2
	情報機器及び教材の活用	①子供たちの興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。 ②子供たちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解している。	β3

γ 幼児理解の理論及び方法

全体目標 幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。

授業科目名	教職課程コアカリキュラムの到達目標		自己評価
幼児の理解と支援	幼児理解の意義と原理	①幼児理解の意義を理解している。 ②幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解している。 ③幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。	γ1
	幼児理解の方法	①観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。 ②個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。 ③幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解している。 ④保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。	γ2

Δ 教育実習（幼稚園実習）

全体目標 〈略〉

授業科目名	教職課程コアカリキュラムの到達目標		自己評価
教育実習 B 学校種を記入 幼稚園	観察及び参加並びに教育実習校の理解に関する事項	①幼児、児童又は生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 ②指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。 ③教育実習校（園）の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。 ④学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。	Δ1
	保育内容の指導及び学級経営に関する事項	①幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。 ②保育に必要な基礎的な技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。 ③学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解している。 ④様々な活動の場面で適切に幼児と関わる事ができる。	Δ2

IV-1 自己評価・卒業時

全体目標 教育学部ディプロマ・ポリシーを達成できているかを自己評価により確認します。

到達度欄における自己評価（3段階）の目安は以下のとおりです。

A 十分に達成した・達成できた **B** 達成した・達成できた（基本はB評価） **C** 達成できなかった

1. 幅広い教養と分野横断的な学力

- ・ 学術文化の基盤となる幅広い学術的教養を身につけている。
- ・ 論理的に考える力や情報化社会に対応する実践的な力を身につけている。

到達度（いずれかに○）	その他、これまでに取り組んだことや、特記事項があれば記入してください。
A ・ B ・ C	

2. 専門的知識や技能

- ・ 学校教育において教育活動を行うための基盤となる専門的知識や技能を身につけている。
- ・ 幼児期から青年期に至る子どもの発達を見通し、個々の多様な教育的ニーズを理解し支援できる。

到達度（いずれかに○）	その他、これまでに取り組んだことや、特記事項があれば記入してください。
A ・ B ・ C	

3. 課題解決力と自己学修能力

- ・ 子どもたちに関わる専門職として、生涯にわたって学び続ける基盤を有している。

到達度（いずれかに○）	その他、これまでに取り組んだことや、特記事項があれば記入してください。
A ・ B ・ C	

4. 協働性とコミュニケーション能力

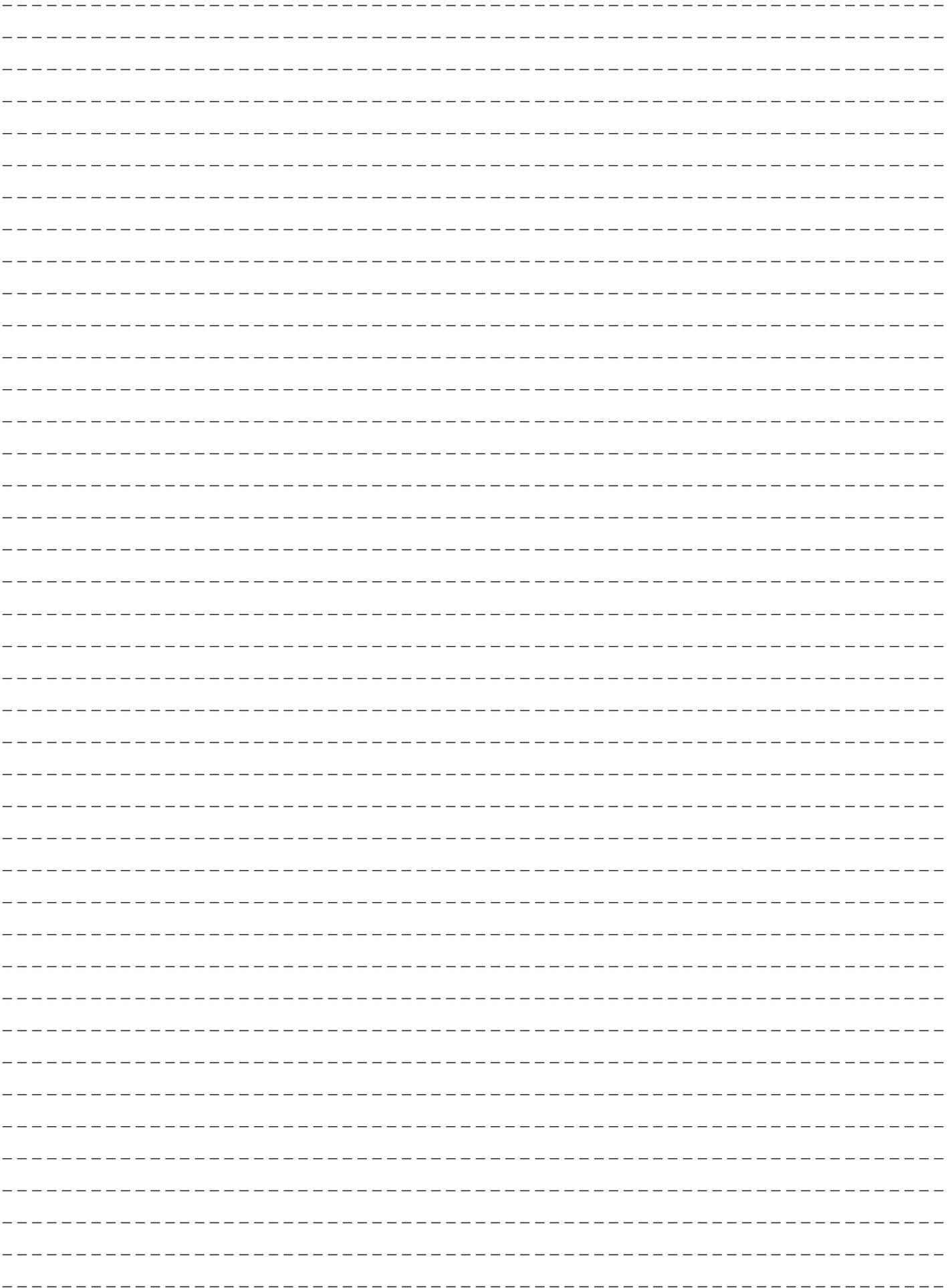
- ・ 基本的人権を擁護し、他者と関わりながら教育活動を行うための基盤を有している。

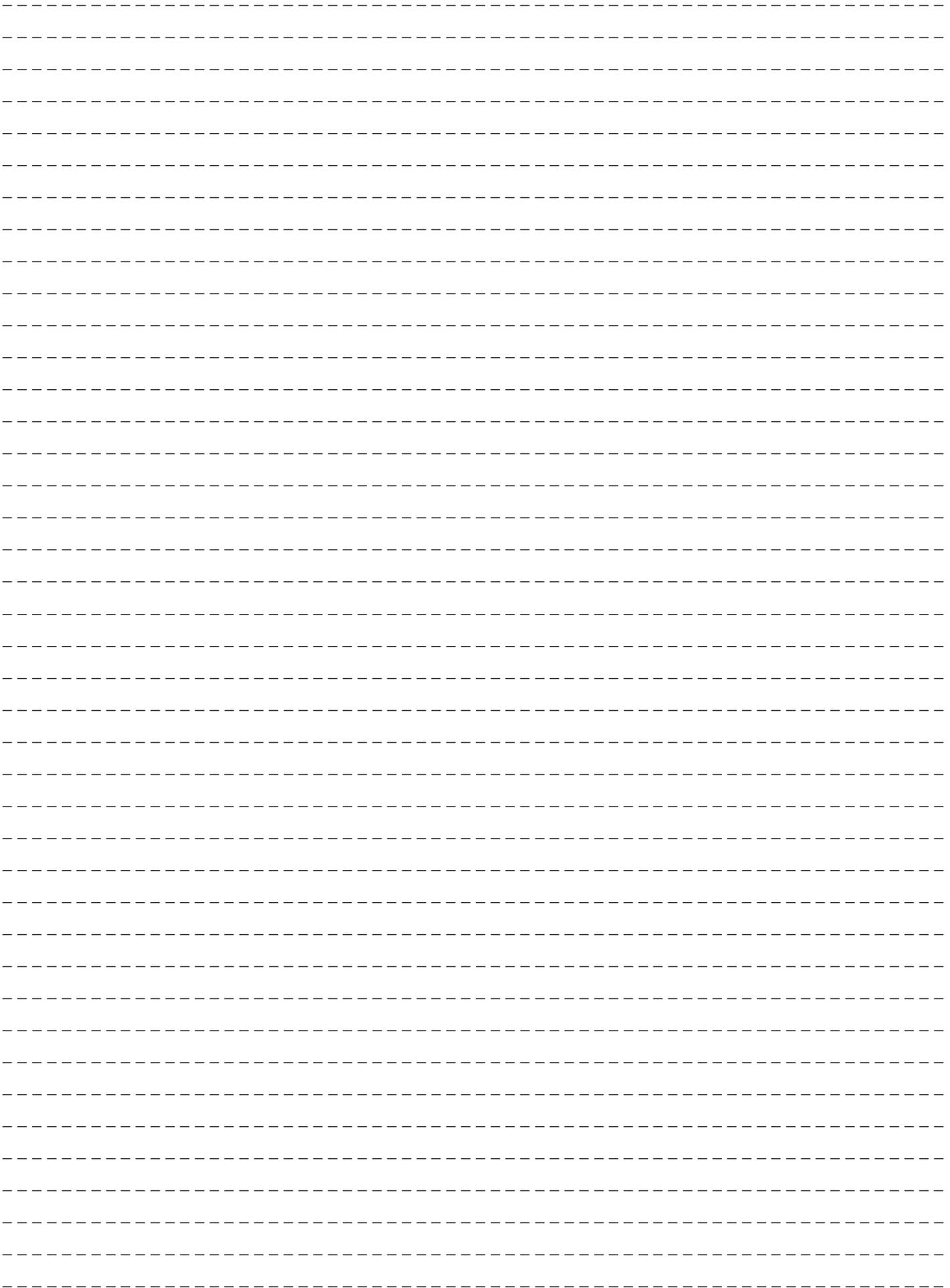
到達度（いずれかに○）	その他、これまでに取り組んだことや、特記事項があれば記入してください。
A ・ B ・ C	

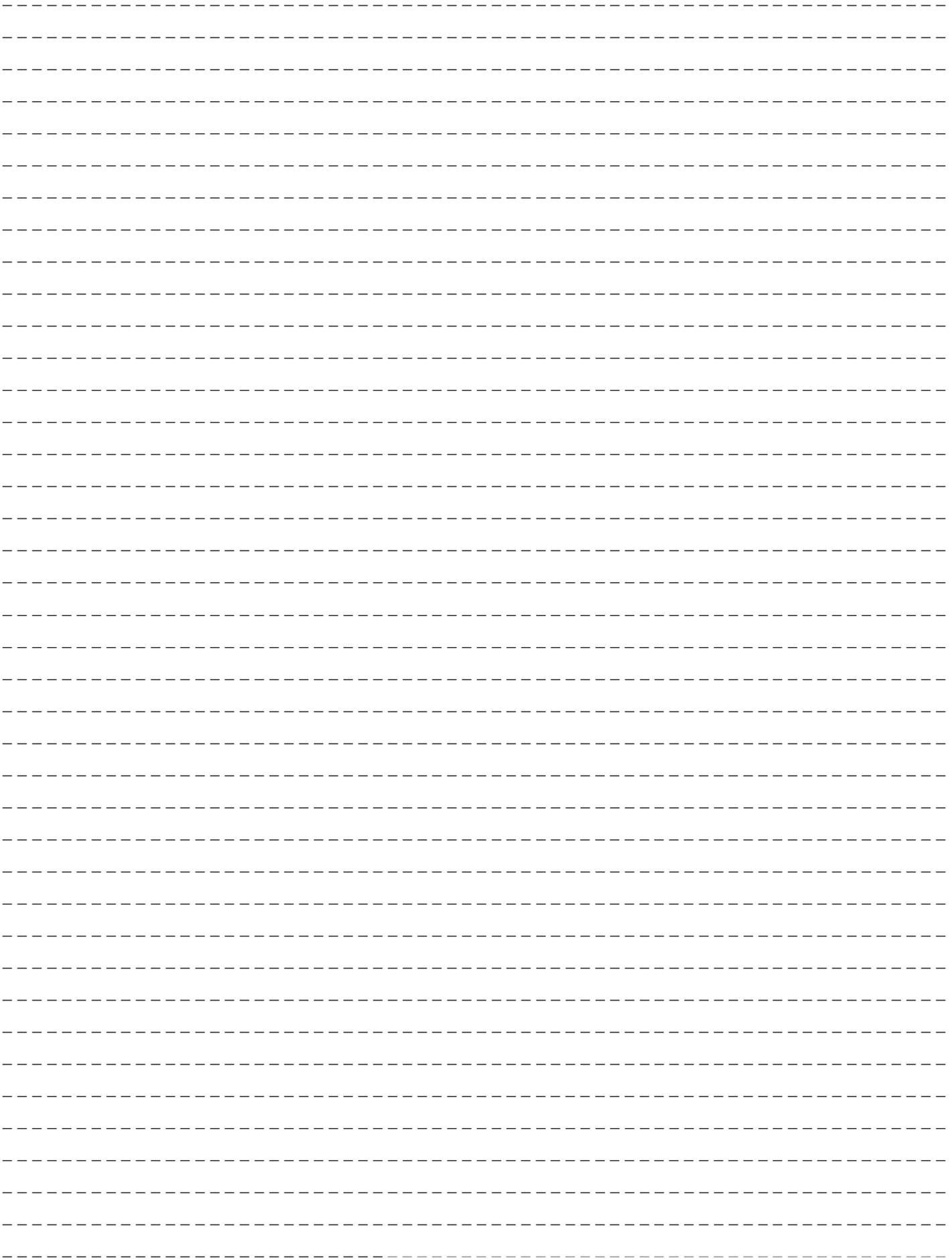
5. 地域への関心と国際的視点

- ・ 地域の特性を理解するための基盤となる知識や技能を身につけている。
- ・ 国際理解・異文化理解の能力を身につけている。

到達度（いずれかに○）	その他、これまでに取り組んだことや、特記事項があれば記入してください。
A ・ B ・ C	







学びの軌跡（教職カルテ） - 教師としての成長のために 2023年度入学者用（75期）

令和5年（2023年）4月 和歌山大学教育学部 発行
和歌山印刷所 印刷